

2021年度 一般入学試験 後期日程

国 語

(試験時間 60分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、29ページあります。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。

① 試験コード欄・座席番号欄

試験コード・座席番号(数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名・フリガナを記入しなさい。

- 5 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～11）に答えなさい。

① 現代の技術が世界にもたらした変容をめぐるハイデガーやオルテガの指摘と一見対立するように、レヴィ・ストロースは『野生の思考』で、現代に生きる野生の思考について以下のように述べている。現代の文明の中に生きる人びとが、「未開人」と呼ばれる人びとのもつ自然に対する鋭い観察や解釈の力をはや失ってしまったという、よくあるタイプの現代文明批判は正しくない。【a】、「まったく目につかぬほどかすかな手がかりから獣の通った跡を読みとるアメリカインディアンや、自分の属する集団の誰かの足跡なら何のためらいもなく誰のものかを言いあてるオーストラリア原住民のやり方は、われわれが自動車を運転していて、車輪のごくわずかな向きや、エンジンの回転音の変化から、またさらには目つきから意図を推測して、いま追い越しをするときだとか、いま相手の車を避けなければならないとつさに判断を下すそのやり方と異なるところはない」からだ。

② 異文化社会に属する観察者から見れば、おそらく、大都會の中心部や高速道路の自動車交通は人間の能力を越えるものと判断されるであろう。たしかにそれは人間の能力を越えているのである。ここでは人間どうし、自然法則どうしがそのまま面と向き合うことがなく、運転者の意図によって人間化された自然力の体系どうし、人間が媒介する物理的エネルギーによって自然力に変換された人間どうしが向かい合うのだから。もはやそれは動かぬ物体に対する行為主体の操作でもなければ、行為者の地位にまでもち上げられた物体が、代償をもとめることなく自分の地位を物体に譲った主体におよぼす逆作用でもない。【b】、どちらから見ても、一定量の受動性を含むような状況ではないのである。登場する存在は、同時に主体として、また客体として、ぶつかり合う。そこで使われるコードでは、両者をへだてる距離の単なる変動が、声なき呪文の力をもつのである。

③ 野生の木々や動物たちの中に人間の世界と照応する意味を読みとってきたかつての世界から、現代文明がすでに隔たった場所

にあるとしても、私たちは自分たちの周囲に作り出した技術的世界の中に、「未開人」と呼ばれる人たちが自然の中に働かせたのと同質の力を働かせて、私たちにとつての意味の世界を読みとつているのだ、とレヴィ・ストロースは言う。それゆえ私たちは、そこに、「人間と世界が互に他方の鏡になるという、^B展望の相互性が機械文明の面に移されているのを再び見出すのである」と。

4 人は自動車を操るとき、機械としての自動車、その機械を通じて感じられる路面の状態、走行中に周囲に見出す他のドライバーたちの挙動などを情報として読みとり、それにもとづいて次にとるべき行動を決める。それは、ドライバーが周囲の環境——自分が運転する自動車も他のドライバーも、運転者にとつては自らの周囲に見出される「環境」である——と不断にコミュニケーションをとり、そこから読みとつた情報を次なる行動へとフィードバックしているということだ。確かに車を運転するとき、多かれ少なかれ——運転能力や注意深さや用心深さの個人間の差はあれ——、私たちはそのように振る舞っている。自動車だけではない。「c」、工場で使われる加工・製作用の機械でも、それらを使いこなす繊細な技術が必要であればこそ、それに習熟した「現代の名工」のような人びとがいるのだし、同様のことは電車や飛行機、トレーラーやクレーンなどの操縦についても見出すことができる。それだけではない。現代の台所で首尾よく調理を行なうには、ガスレンジや電子レンジ、素材や調味料、鍋釜や容器の使いこなしについての体系的な知識を身につけ、直面している状況の意味を読みとり、既知の知識と照らし合わせて作業を進めてゆくことが必要だ。コンピュータを本当に使いこなすためには、大量の知識と情報に通じ、マニュアルを読み解き、それらを直面している状況と照らし合わせ、ときにマニュアルの想定外の事態にも知識と直感を用いて対処してゆくことが必要なことは言うまでもない。

5 「野生の思考」も、現代文明を生きる人びとの「^イカチク化された思考」(レヴィ・ストロース)も、どちらも同じ人間の理性による思考であり、そこには人間と世界の間の同様な関係が見出せる。世界が自然の事物でできているのであれ、人工の建造物や機械装置からできているのであれ、人間はそこに自らにとつて有意義な“声”を、人間に普遍的な分析理性とそれにもとづく思考によつて聞き取り、自らと世界を照応させる。この点において、レヴィ・ストロースの述べることは間違いではない。だがしかし、現代の人間と世界の関係のあり方についてももう少し具体的に考えるならば、「^C野生の思考」が世界を解釈し、理解するのと

は異なる条件の中に現代の私たちが在ることがわかる。

⑥ 第一に、人が自動車その他の機械の操作において読みとる世界は、人間にとつての有用性や手段性という「意味」を与えてくれるけれど、野生の思考が自然の中に読みとつたり、近代以前の世界で人びとが伝統の中に読みとつたりしたような世界像を与えてくれるわけではない。

⑦ 第二に、現代の機械工学や電子工学、交通工学、制御工学などは、人間が機械を使用する際の関与の度合いと負担を低減する方向に進歩してきており、その結果、私たちが自動車や家電製品やコンピュータに対してもつ関係は、『野生の思考』の書かれた二〇世紀半ばとは異なる様相を呈するようになってきている。

⑧ このことについて、もう少し丁寧に考えてみよう。

⑨ ^(注5) トランスミッションはオートマチックで、コンピュータにより様々なメカの連携が自動制御された車に乗って、カーナビによつて進路を指示されるとき、SF映画のように声で行き先を指示すれば希望の場所まで運んでくれるわけではないが、私たちは、レヴィ・ストロースが先の文章を書いた二〇世紀半ばの運転者たちよりも、車の調子や周囲の環境の様相に遙かに無頓着に車を走らせることができる。現代日本の平均的なドライバーの視点から読むならば、車の運転についてのレヴィ・ストロースの説明は、車のエンジンやタイヤの状態につねに気を配り、車を「自分で操る」ことにこだわる一部の車好きやカーマニアの話に思えるだろう。エンジンやタイヤの音の変化や、周囲の車やその運転手の動きに敏感に反応する車好きやカーマニアは、普通のドライバーから見ると、周囲の自然環境の中に様々なメッセージを読みとる「**X**」のようなものだ。それに対して現代日本のごく普通の乗用車の場合、エンジンやタイヤや道路や周囲の環境とドライバーの間に自動制御や情報処理を行なうメカニズムが介在していて、^(口)運転者をさほど関与させることなく車の挙動を制御したり、ドライバーが行なうべき操作を人間の言語やディスプレイ上のヒョウジュン化されたシグナルによつて表示したりする。ここでは、人間が自ら機械や環境の「**Y**」を読みとり、そこから得た情報を次の操作に反映させるというプロセスを軽減したり消去したりするメカニズムが人間と機械や環境の間に介在しており、そのメカニズムのユーザー・インターフェイスであるディスプレイやシグナルと、その作動にドライ

バーが気づくことすらない自動制御のメカニズムが、ドライバーにとつての「環境」をなしているのである。

10 二〇世紀の後半には自動車以外の領域でも、コンピュータを利用した自動制御や、人間の意志と機械の作動との間のコンピュータによる媒介技術が進展・普及していった。工業用ロボットだけでなく、CAD (computer aided design = コンピュータ支援設計) に^(い)テンケイ的に見られるような製品の設計と製作の過程へのコンピュータの介在も、今日では普通のことだ。多くの家庭用電気製品は、組み込まれたコンピュータ・システムによつて制御されている。携帯電話やパソコンが、特定の目的に限定されない多様なコミュニケーションや作業を媒介するものであることは言うまでもない。現代の産業活動も日常生活も、そうした自動制御するコンピュータや、諸活動を^(イ)仲立ちするコンピュータとそのネットワークに支えられている。

11 ^(二)電子制御化された機械の発達と普及によつて、自動車だけでなく社会生活の様々な領域で、私たちは物や環境とのコミュニケーションの多くの部分を機械とそのシステムに委ねるようになった。それによつて私たちの機械や環境との「対話」において、あらかじめ書かれたマニュアルや、機械や^(ニ)ナイゾウされたコンピュータの指示との対話が多くを占めるようになり、さらには自動制御する機械の無言のプロセスが、私たちの環境の地の部分を作り出すようになった。ここでは、機械や環境をあるコードに従つて読み解くのではなく、あらかじめ私たちに理解可能な言語やサインとして示される情報を受け取り、それに従つて定められた操作をすることが多くなつた。鉄道や飛行機の運転・操縦やその^(ホ)カンセイといったプロフェッショナルの領域でも、ガスや水道や交通信号の制御といった社会生活の基礎インフラの制御の領域でも、そうした「メディア」による媒介の度合いが飛躍的に進んでいる。コンピュータを用いたそうした電子的な情報と機械の制御のシステムが、人間と自然や機械装置との間を仲立ちする媒介作用の領域を作り出していて、そうした媒介作用の領域がまた、現代における人間とその社会の環境を構成しているのだ。ハイデガーの言葉を借りるなら、私たちの日常生活も、それを支える産業活動も、計算する思惟によつて生み出され、そうした思惟が、人間に代わつて計算し制御するコンピュータに支えられることにより、人間自身が計算することなしに計算され、制御される活動の場となっているのだ。

(若林幹夫の文章による。ただし、一部変更した。)

(注)

- 1 ハイデガー : マルティン・ハイデガー。ドイツの哲学者(一八八九―一九七六)。
- 2 オルテガ : ホセ・オルテガ・イ・ガセット。スペインの哲学者(一八八三―一九五五)。
- 3 レヴィ・ストロース : クロード・レヴィ・ストロース。フランスの文化人類学者(一九〇八―二〇〇九)。
- 4 異文化社会に属する観察者から見れば : 以下、第2段落は全体がレヴィ・ストロース『野生の思考』からの引用となっている。

5 トランスミッションはオートマティックで : 「トランスミッション」は、自動車のエンジンやモーターから発生する動力について、速度や状況に応じてギアを適切に変換しながらタイヤに伝えるための変速機のこと。「オートマティック」は、ここでは「トランスミッション」のうち、自動でギアの制御を行うものを表す。

問1 空欄〔 a 〕 〔 c 〕に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

解答番号は

1

3

a

1

① なぜなら

② とはいえ

③ それゆえ

④ だが

⑤ こうして

b

2

① ところで

② すなわち

③ しかし

④ たとえば

⑤ なぜなら

c

3

① にもかかわらず

② あるいは

③ とりわけ

④ もっとも

⑤ たとえば

問2 破線部ア「挙動」・イ「仲立ち」の本文中の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で

答えなさい。解答番号は 4 ・ 5。

ア 「挙動」

4

- ① 外面的な特徴
- ② 手や足などの様子
- ③ 振る舞いや身のこなし
- ④ 動作による合図
- ⑤ 物を動かすための手順

イ 「仲立ち」

5

- ① 代わりになること
- ② 間に入って関係を結ばせること
- ③ 警戒して見張ること
- ④ 指図や見張りによってとりしめること
- ⑤ 全部のものをまとめおさめること

問3 次の一文は、本文中のいずれかの段落の終わりに入るべきものである。この一文が入る段落として最も適切なものを、後の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 6。

同様のことはコンピュータ・ゲーム機や携帯電話を使いこなすことについても言える。

- ① 第1段落
- ② 第2段落
- ③ 第3段落
- ④ 第4段落
- ⑤ 第5段落

問4 波線部(A)「現代に生きる野生の思考」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～

⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 7。

- ① いわゆる「未開人」が自然という環境から「意味」をくみとったのと同じように、私たちは現代の技術的世界という環境から「意味」をくみとっているということ。
- ② 現代の人々にも、「未開人」と呼ばれる人たちが自然に対して働かせていたのと同じような超自然的な能力が引き継がれているということ。
- ③ 現代の技術の発展は、人々が潜在的に持っている自然に対する敏感な感性を引きだし、現代文明の中にある自然の痕跡を察知できるようにしているということ。
- ④ 自然の中で人々が環境に適應するために働かせた思考の力は、現代文明においても人々に引き継がれ、困難な問題を解決させているということ。
- ⑤ 「未開人」と言われる人たちは、自然の様々な「意味」を観察し解釈してきたが、現代の人々はそうした力よりも文明に適應する能力を高めているということ。

問5

波線部(B)「展望の相互性が機械文明の面に移されている」とあるが、これについて筆者は波線部(B)以降の部分で具体的に説明を行っている。次の各文について、その筆者の説明に合致するものには①を、合致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は

8

12

8

人は自動車を運転している時に、路面の状態や他の車の動きなどをすべて数値的な情報へと変換して理解している。

9

自動車を運転するドライバーをとりまく環境から来る情報が、ドライバーが次にとる行為を決定するという意味で、世界と人間の間コミュニケーションが成立している。

10

機械文明に対して働かせる人間の情報の読みとりや行動へのフィードバックのあり方は、加工や製作用の機械では特に繊細であり、「現代の名工」にしか使いこなせない。

11

台所で家事を円滑に行うにあたって、私たちは食材や使用する道具など周囲の環境に対する体系的な知識をもとに、状況から意味をくみとって行動に及んでいる。

12

コンピュータを使用する場合には、人はマニュアルという環境から必要な情報をすべてくみとり、これをもとにコンピュータへの働きかけを行っている。

問 6

波線部(C)「『野生の思考』が世界を解釈し、理解するのは異なる条件の中に現代の私たちが在る」とあるが、その具体的な説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

13。

- ① 自動車のギア変換がオートマティックに行われることで、現代のドライバーは二〇世紀半ばの運転者たちよりもずっと上手に自動車を走らせることができる。
- ② 自動車のエンジンやタイヤの状態につねに気を配り、自動車を自らの力で操作するようなあり方は、現代ではカーマニアしか行っていない。
- ③ 現代の普通の乗用車では、自動車の挙動を制御することはコンピュータが行っており、人間がそれに関与することはない。
- ④ 自動制御などのシステムが人間と周囲の環境との間に介在することで、自動車を操作する人間が周囲の環境から直接情報を読みとって行動にフィードバックするという過程が、ほとんど失われているような場合が生じている。
- ⑤ 自動制御のメカニズムが発達している現代では、ドライバーは自動制御のシステム自体を環境としてとらえ、自動車を操作するための外界の情報はその環境からのみくみとっている。

問 7

空欄

X

Y

解答番号は

14

15

に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

X

14

①

現地人

②

才人

③

超人

④

奇人

⑤

未開人

Y

15

①

表情

②

調子

③

言葉

④

世界

⑤

思考

問 8

波線部(D)「電子制御化された機械の発達と普及」とあるが、筆者はこれがもたらしたものは何であると述べているか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

16

- ① 環境から様々な情報を受け取って計算を行い、それをわかりやすい言葉へと変換して世界観や環境の持つ意味について伝える、新しいタイプのコンピュータ。
- ② 物や環境とのコミュニケーションの多くをコンピュータの意志に委ね、その意志と環境との関係を読み解くという新しい世界との関係性。
- ③ 機械が計算した情報を「メディア」を介してわかりやすい形で受け取り、決められた操作を行うという、自動的かつ受動的な環境との関わり。
- ④ 人間が環境と関わる際に、理解可能な言語や情報だけと接し、自身に理解不可能な機械のメッセージは読み解かないという、新しい「野生の思考」のあり方。
- ⑤ 計算する機械が自ら世界の意味を考え、演算によって最適なものと導き出された未来をめざし、人間が合理的に環境と関わるという世界との関わり。

問9 本文の内容を端的にまとめたものとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

17。

- ① レヴィ＝ストロースと現代
- ② 「未開の思考」の可能性
- ③ 自動制御とコンピュータ
- ④ 新たな「環境」への適応方法
- ⑤ 現代の「野生の思考」とその変容

問10 二重傍線部(イ)～(ホ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答

番号は

18

～

22

。

(イ) カチク

18

- ① チクデンチの開発競争
- ② 会社からホウチクされる
- ③ チクワを煮込んで食べる
- ④ 家屋をカイチクする
- ⑤ キチクにも劣る所業

(ロ) ヒヨウジュン

19

- ① 法令ジュンシユの精神
- ② 物価をヘイジュン化する
- ③ メーカーが作るジュンセイ品
- ④ ジュンタクな資金を用意する
- ⑤ 条約をヒジュンする

(ハ) テンケイ

20

- ① 銃に弾丸をソウテンする
- ② 電子メールに文書をテンブする
- ③ 豪華なゴテンが重要文化財になる
- ④ スポーツのサイテンが行われる
- ⑤ 繁華街にシュッテンする

(ニ) ナイゾウ

21

- ① ゾウガン細工をほどこす
- ② ゾウキ移植への本人の意志を問う
- ③ 著名な作家がアイゾウしたパイプ
- ④ ゾウトウのための品物
- ⑤ 武将がゾウヒョウを蹴散らす

(ホ) カンセイ

22

- ① 図書館の運営をイカンする
- ② 分割払いについてのヤツカンを確かめる
- ③ カンベンなやり方を学ぶ
- ④ 要塞がカンラクする
- ⑤ 厳しい批判をカンジュする

問11

日本の近代文学と文明や技術の問題についてまとめた次の文章の空欄

I

く

III

に入れるのに最も適切なものを、後の各群の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は

23

く

25

人間を描く文学は、文明や技術の進展と相即して、その内容やテーマを変化させた。たとえば夏目漱石の「前期三部作」の一つとして知られる『I』は、主人公の青年が九州から汽車で上京するところから物語が始まるが、鉄道は明治時代になって日本に本格的に導入された技術の一つである。

技術の導入は日本の風景そのものを変化させたが、近代のそうした急激な変化を批判した作家の一人に、永井荷風がいる。永井は、アメリカ・フランス遊学からの帰国後、日本の急激な文明化の様子にまなざしを向け、『II』では「電気鉄道に乗って、鉄で出来た永代橋を渡る」時代の変化を作中の「自分」の目を通して描いている。

技術はメディアを変化させるが、大正期には映画が娯楽として広まり、文学者もその影響を受けた。川端康成の『III』では、上越に向かう汽車の窓に登場人物の姿が映る様子を、映画の技法である二重露出の様子にたとえて描写している。川端は、前衛映画『狂った一頁』^{ペイジ}の製作にも、横光利一とともに参与した。

I
23

- ① 沈黙の塔
- ② 浮雲
- ③ 或る朝
- ④ 明暗
- ⑤ 三四郎

II
24

- ① 深川の唄
- ② 蒲団
- ③ 山月記
- ④ 芋粥
- ⑤ 或る女

III
25

- ① 伸子
- ② 金閣寺
- ③ 伊豆の踊子
- ④ 雪国
- ⑤ 夜明け前

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えなさい。

ネアンデルタール人の脳は私たちの祖先と同じくらいの大きさだったそうだ。身体はもつと頑丈でたくましかった。ともに生きていた時代もあったが、3万～4万年ほど前、彼らは地球上から姿を消してしまった。

どうして絶滅したのか。専門家の間では諸説あるというが、筆者には不思議で仕方がない。強い者が弱者を力で倒すこの世界で、勝ち残るのはむしろ彼らのほうではなかったのか。

「じつは生命の歴史をみると、生き残ったのは強者ではなく、変化に適応できる弱者のほうでした」。著書『生き物の死にざま』などで知られる静岡大学教授の稲垣栄洋さん（51）はそう教えてくれた。

私たちはつねに **X** を意識し、いまを生きている。それを可能にしたのは、弱さゆえに集団性を強め、その過程で仲間が何を考えているのかを「想像する」という力を得たこと。「想像は一人ひとり異なります。その **Y** 性が生き残りのカギとなったのでは」と稲垣さん。

逆に言えば強い者はその強さのために変化を望まず、**Y** 化しにくい。恐竜もネアンデルタール人も。「強い者が勝つのではない。勝った者が強いのだ」とは元サッカー西独代表ベッケンバウアーの言葉だ。

きょうは「進化の日」。160年前、進化論を唱えたダーウインが『種の起源』を出版した日にちなむそうだ。環境の変化に適応できない生き物はいつかは淘汰されていく。人類も例外ではない。その **Z** 存在のあすを想像して、しばし謙虚な気持ちとなる。

（『朝日新聞』二〇一九年一月二四日「天声人語」による）

問1 破線部ア「強い者」・イ「弱者」とあるが、ここでいう「強い者」・「弱者」に相当するものの組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 26。

- | | | |
|---|--------------|--------------|
| ① | ア 人間 | イ 動物 |
| ② | ア ネアンデルタール人 | イ 私たち |
| ③ | ア ネアンデルタール人 | イ 私たちの祖先 |
| ④ | ア 私たち | イ ネアンデルタール人 |
| ⑤ | ア 私たちの祖先 | イ ネアンデルタール人 |

問2 空欄 に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

。

- ⑤ 現実
- ④ 強弱
- ③ 過去
- ② 未来
- ① 生死

問3 空欄

28

Y

に共通して入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

- ① 独創
- ② 孤立
- ③ 多様
- ④ 積極
- ⑤ 消極

問4

波線部(A)「強い者が勝つのではない。勝った者が強いのだ」とあるが、筆者はこの引用を通じてどのようなことを表しているか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

29。

- ① 「勝てば官軍負ければ賊軍」ということわざの通り、世間は勝者しか評価しない。
- ② 現在の力関係の変化を恐れるため、強い者は常に勝つことができない。
- ③ 試行回数を増やせば、実力に劣る者がたまたま勝利を得ることもある。
- ④ 力こそ正義であり、勝利によってはじめてアプローチの正しさが証明される。
- ⑤ 一面的な尺度に基づく強弱だけで、最終的な勝敗が決まるわけではない。

問5 破線部ウ「淘汰され」と近い意味の語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答

番号は

30

。

- ① 排除され
- ② 包摂され
- ③ 凍結され
- ④ 撃退され
- ⑤ 統合され

問6 本文の主旨を考慮した上で、空欄 に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えな

さい。解答番号は 。

- ① 柔軟で勇敢な
- ② 鼻持ちならない
- ③ 可能性に満ちた
- ④ 強くて弱き
- ⑤ 想像力を失った

問7 二重傍線部(イ)～(ホ)の品詞名を、後の①～⑧の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は

32

3

36

。

(イ) 時代もあつたが

32

(ロ) その過程で

33

(ハ) 一人ひとりが異なります

34

(ニ) 変化を望まず

35

(ホ) しばし謙虚な気持ちとなる

36

① 名詞

② 動詞

③ 形容詞

④ 連体詞

⑤ 副詞

⑥ 接続詞

⑦ 助詞

⑧ 助動詞

◆ 写 真 提 供 等 ◆

2021年度一般入学試験後期日程【国語】

『朝日新聞』2019年11月24日「天声人語」

承諾書番号 21-1812

※上記記事に関して朝日新聞社に無断で転載することを禁じます。